



青少年育成

かづの

令和5年3月31日

第31号

青少年育成
鹿角市民会議

「青少年育成鹿角市民会議 30周年記念式典」



会長
高杉奈穂子

この記念講演では、秋田県出身のプロマジシャン、ブラボー中谷氏をお招きし、マジックショーを交えたご講演をいただきました。

30周年記念感謝状贈呈者

石井 勲 様

長年にわたり教育や地域福祉など複数の分野に携わり、青少年の健全な育成活動に尽力されました。また、本会の会長も務められました。

大里 廣明 様

見守り団体代表として長年にわたり子ども達を見守られ、青少年を取り巻く環境の健全化に尽力されました。また、本会の会長もお務めになりました。

齊藤 末治 様

子ども達への伝統文化の指導や老人クラブ活動など、多岐にわたる分野で青少年育成活動に

尽力されました。また、本会の副会長もお務めになりました。

株式会社 ユゼ 様

本会設立時より青少年育成活動や本会の理念へ深いご理解をいただき、企業会員として長きにわたりご支援をいただきました。



30周年記念講演

「不思議と笑いと驚きと」

講師 ブラボー中谷氏

秋田県を中心に日本全国、時には海外を舞台に、奥様と二人三脚で活躍のプロマジシャンです。現在は美郷町に店舗を構え、手品を間近で楽しめる居酒屋の経営もされています。

マジシャンを志すきっかけとなった、小児病棟の子ども達との出会いを始め、手品を通じて関わった子ども達にまつわるエピソードをご講演いただきました。



令和4年度 青少年を育てる市民のつどい ・PTA活動を考える会

本年度の「市民のつどい」は、かづのPTA連合会との共同事業として、去る令和4年11月26日（土）、約100名の参加のもと、エスポワールかづの会場に開催しました。

はじめに、青少年健全育成功労者表彰を行い、花輪オータリークラブ、菅原廣志氏に対し表彰状を贈呈しまし

た。

つづいて、中学生による「私の主張発表」を行いました。花輪中学校3年小山田愛さん、尾去沢中学校3年小林愛未さん、八幡平中学校3年戸館果実さんの3名は「第34回鹿角地区少年の主張大会」で優秀賞を受賞し、鹿角地区を代表して「わたしの主張2022

秋田県大会県北地区予選大会」、さらには「秋田県大会」への出場を果たしました。

子ども芸能発表では、十和田小学校「フェスティバルクラブ」の皆様をお招きし、ユネスコ無形文化遺産への登録が決定した「毛馬内の盆踊」を披露していただきました。

続いての講演では、NPO法人かづのclassyより木村芳兼氏、松村託磨氏を講師に、「豊かな鹿角 子供たちの未来へ」と題してお話いただきました。参加者の皆さまからご好評の声をいただき、つどいならびにPTA活動を考える会は盛会裏に終了しました。

「郷土存続のための 令和的戦略」

花輪中学校三年 小山田 愛さん



1991年、「秋田県新総合発展計画」において、人口減少問題が重要課題として位置づけられました。皆さんは、秋田県の人口減少がどれほどなのか、ご存知でしょうか。五年ごとに行われる国勢調査の直近のデータによると、2015年の前回に比べて、六万三千人少なくなり、ついに秋田県の人口が百万人を下回ったことが大きく報道されました。

私は、「秋田は何もないんだから、

大人が変われば子どもも変わる

人が減るのも無理もない。私もいずれは秋田から出ていくんだし……」と思っていて、将来の視野がより広がるような発展都市で暮らしたいと希望しています。

しかし、そんなことを安易に言えなくなってしまう記事に出会いました。「秋田県、あと八十三年で人口が0になるかもしれない！」

この見出しに「ありえない。」と反論する人は多いでしょう。しかし、現に国勢調査の結果から分かるように、毎月千人以上減少しているのです。計算すれば分かるように、「八十三年後に0」はあり得る話なのです。私たちが育ててくれた故郷が、あと一世紀も経たないうちに消えてしまうのです。故郷を守るために何ができるのでしょうか。

しかし、前にも述べたように、人口減少対策や少子化対策などは三十年以上前から行われていきます。それなのに、むしろひどくなるばかりです。この問題を解決する画期的な方法などないのではないのでしょうか。

独身男女の出会いの場づくりや子育て世帯への経済的な支援などは、どこでも耳にしますが、その方向性を根本から見直す時期にきていると感じるのです。

少子化は結婚する人が少ないからとか、子どもを産まないのは経済的な余裕がないからとか原因を決めてきました。が、本当にそうなのでしょうか。

そんな疑問を抱いていたところ、ある新聞記事を目にしました。それは、秋田魁新報の「若者のミカタ」というロングの特集記事でした。その中の「ないもの探しをやめ、行動しよう」という見出しに「これだ！」という思いが湧き上がりました。故郷に戻って貢献したり、新しい仕事を探したり創ったりする人、地域の魅力を発信する

人など、多くの青年たちが試行錯誤して故郷をなんとか活性化したいと活動している姿がありました。ああ、私にはこれが足りなかったんだと、地域への無関心さと自分の想像力の乏しさに気づかされました。地域の良さを引き出し、活性化に尽力する人たちがいるのに、安易に「都会へ」という選択をしようとしていた私……。いや、私だってもっとできるはず。だって、私たちがこれから生きていく何十年という未来の話なのだからあきらめていいはずがない！

そこで、二つの提案を思いつきました。一つ目は、教育や啓もう活動によって生き方や家族の在り方、地域とのつながりについての価値観を変えていくことです。昭和から個性重視の平成の時代になり、自分のことだけを優先する生き方が一つの要因だと考えます。人は一人では生きていけません。もっと誰かと一緒に生きることが大切にしませんか。

二つ目は、地元で豊かに幸せに生きようとすることです。ネットや便利なサービスを活用して、今やどこにいても多様な働き方ができる時代です。そういったものを利用して秋田にいながら豊かに幸せな、しかも経済的にゆとりのある生活を自ら作っていくことを基盤としていくということです。

もちろん、国の中枢で働きたい、県外の大きな会社で働きたいという明確な目標がある人もいます。そうではない「とりあえず都会へ」という人たちは、ぜひ大いに県外で学び、たくさん人脈をつくり、地元でその力を発揮してもらいたいのです。

私もその中の一人に必ずなります。皆さんも、「秋田にはなにもないから」と、あきらめるのをやめませんか。これが私の秋田の人口減少対策案です。

「きっかけ」

尾去沢中学校 年 小林 愛未さん



宣誓 我々選手一同は、「進む新たな挑戦 熱い思いを尾去沢に」のテーマのもと 短い練習期間でしたがその成果を十分に発揮し 先輩方が挑戦したように 運動会をさらに発展させ 見ている人へ 私たちの熱い思いが届くよう 一人ひとりが全力で競技することを誓います

今年五月に行われた、尾去沢小学校とのかなやま大運動会で、私は選手宣誓を務めました。でも、私はほとんどの競技に選手として出場することはできませんでした。

私は小六の卒業式が終わってから、右大腿骨頭すべり症の治療のために、手術をしました。「手術をしなければならぬ」と言われたときは、不安でいっぱいでしたが、「普通に歩けるようになりたい」「早く痛みがなくなっほしい」という思いで、手術を受けることを決断しました。

手術の影響で、走ることはもちろん、歩くことも大変だったし、松葉杖生活が続く、日常生活でも制限が多かったです。

勉強でも日常生活でも置いて行かれてしまふのではないかと、他の人と違うことへの不安、焦り……「みんなと同じ」ということが当たり前だと思っていた私にとって、自由に歩けないことは辛く、毎日ネガティブな感情に悩まされ生活していました。

そのような日々を乗り越え、今日を迎えることができてるのは、家族や友だちが励ましてくれたのはもちろんのこと、リハビリの先生の存在が大きかったように感じます。

私の他にもリハビリをしている人はたくさんいるにも関わらず、常に温かみをもっと接してくださり、その人に合った的確なサポートをしてくださいました。そのおかげで、辛く苦しいリハビリに耐え、乗り越えることができました。

私は、足の手術を通して、得たことが二つあります。一つは、「リハビリについて学び、リハビリを必要とする人をサポートしたい」という夢をもつことができたことです。リハビリの先生の姿を見て、自分もリハビリについて学び、病院に来ている人はもちろん、地域の人や病院に来ることが難しい人にも、自分自身の身体について知ってもらい、的確なリハビリを受けられるようサポートしたいと思うようになりました。

私自身が苦しい思いをして、支えてもらった、という経験がきっかけで得ることができました。

もう一つは、「制限がある中でも、できることをやってみよう」というこれまでにはなかった考え方です。おそらく、普通に選手として出場できていれば、「選手宣誓をやってみよう」という考えには至らなかったと思います。「制限」というきつかけから、私は新たな考え、価値観を得ることができました。

現在、新型コロナウイルス感染症の広がりによって多くのことに制限がかり、息苦しい世の中が続いています。私も小学校卒業から現在に至るまでずっとマスク生活で、行事やイベントがなくなるなんてもう慣れっことです。きつと卒業アルバムの写真も、ほとんどがマスク姿です。

たしかに制限は多い昨今ですが、制限があるからこそ、そのことをきつかけに何か新しいことを始めてみる。こうすることで、少し人生が楽しくなるような気がしませんか。

手術をしたことで、たくさんさんの制限に悩まされ、苦しめられました。この決断が本当に正しかったのかと考えることもあります。でも、確かに言えるのは、この決断が、この制限が私に変わるきっかけをくれた、ということだと思います。

一見マイナスなことも、何かを変えきつかけになる。みなさんも、「きつかけ」を大切に、今の生活をより豊かに、よりよいものに、変えてみませんか。

「9年間、全く変わらない仲間と過ごして」

八幡平中学校 年 戸舘 果実さん



私には、九年間全く変わらない三十四人の仲間たちがいます。中学校へ上がる時に他の小学校から集まることがないので、長い人は保育園の年中組からずっと一緒です。

太陽が照らす日も、土砂降りの日も、大雪の日も……。学校に行けば、中三になっても朝から廊下を走り回るヤツ、教室の後ろで「えっ？あいつのこと好きなん!？」と恋バナと呼ばれるものをする乙女な女の子たち。昼休みに体育館で遊びまくり、5時間目が数学だとやる気をなくして寝ぼけてるアイ

防ぎよう!!「大人の地域忘れ

若者の地域離れ

子どもの地域知らず」

ツ。個性が豊かすぎて自らが「うちの学年、動物園だから」と言ってしまうほどで、静まりかえる時間と言え、誰かが何かをやらかしてクラス全体で先生から事情聴取されるときくらいでしようか。

そんな私たちですが、九年間も一緒にいると、何かと不都合なことも出てくるのです。

例えば、自分を新しくリセットしたいとき。「小学校の時は自分に自信がもてなくてあまり自分の考えを伝えられなかったけど、ほんとうはもつと話したいから明日からたくさん話してみよう」と気持ち切り替え、話してみると、「...そんなキヤラだっけ?」なんかついてるの?」と心配され、結局元通り昨日までの自分に...

例えば、競う相手がなくさんほしいとき。テストで同じくらいの点数の人を探すものの、毎回同じ名前。競う人数が少ないため、正直点数への危機感ももてなくなるときもある。

同じ人と過ごすと言ったら家族と同じですが、家族とはまた違う感覚があります。

ですが、不都合なだけではありません。9年という長い年月があったからこそ築けた物もあります。

一つの行事を終えることに、クラスの団結力は格段に上がっていきました。団結力が上がるまでの道のりの中にはぶつかり合うこともありました。が、解決していったのは、ともに過ごしてきたからこそ分かるその人の人柄を理解しているからだと思えます。これは団結力が上がるだけでなく、人柄を理解していることでそれぞれ生かされる場面が必ず出てきます。

このように、同じ仲間と長い時間を過ごすと思いが話まりそつになるときもあり、大変だなと感じることもありますが、もはや「一緒にいて当たり前」と思っているこの仲間たちは、私に大

切なものを教えてくれました。それが何か、皆さんは分かりますか。それは、一緒にいるということが実は当たり前ではないということです。この仲間たちと生活できたこと、九年間という長い年月をともに乗り越えられたこと、これは普通に考えたら決して当たり前なことではありません。二人や三人ではなく、三十四人という仲間とともに同じことを学び、同じ給食を食べてきたこの九年間は、大胆に言えば奇跡も同然なのです。「仲間」、それはいて当たり前のことではなく、巡り会えたこと、そのものを奇跡と呼ぶべきなのではないでしょうか。

講演

「豊かな鹿角 子供たちの未来へ」

講師 NPO法人かつのclassy
理事長 木村 芳兼氏
事務局長 松村 託磨氏

鹿角市地域おこし協力隊（鹿角市移住コンシェルジュ）のメンバーが中心となり、任期終了後も移住関係のお仕事やまちづくりに取り組めるよう設立された団体です。

移住に関する

相談の受付や鹿角を盛り上げるためのイベントを数多く実施しています。

移住者から見た鹿角の魅力や、鹿角での子育てについてご講演いただきました。



す。一人ではできないことも、仲間がいるだけで可能性は無限大に広がります。私と同じ学生のみなさん、周りの友達やクラスメイトを大切にすればきっと、あなたが大切に思ってくれる人がいるでしょう。

最後に、九年間をともに過ごしてくれたクラスメイトのみんな、本当にありがとう。こんなに自分のクラスのことを話すのも少し照れくさいけど、残りの時間も楽しんで自分たちらしくがんばってほしい。

この主張を聞いてくださった皆さんにも、最高の仲間ができますように。

青少年健全育成成功労者 鹿角市民会議会長表彰

花輪ロータリークラブ 様

子ども達への環境教育に貢献されたほか、フードバンクへのサポートなど、子育て支援活動にも積極的に取り組まれ、青少年を取り巻く健全な環境づくりに寄与されました。

菅原 廣志 様

花輪はやしの三味線奏者として活動する傍ら、約30年にわたり指導者としても活躍され、子ども達への指導や見守りを通じて青少年の健全な育成と文化の継承に尽力されました。



子ども芸能発表発表者活動紹介 十和田小学校 フェスティバルクラブ

ユネスコの無形文化遺産に登録決定した「毛馬内の盆踊」を学んでいます。

盆踊り保存会、大太鼓保存会、毛馬内横笛の会の皆さまのご指導の下、毎年8月に開催される「毛馬内の盆踊」で練習の成果を披露しています。



ふるさと少年探検団



市民会議では、市内の小学生を対象に、地域の歴史や文化について体験する「ふるさと少年探検団」事業を行っています。楽しく学びながら郷土への理解と愛着を深めてもらうことを目的としており、今年度は尾去沢小5・6学年児童29名を10月24日に招待し、事業を実施しました。

尾去沢小児童は、八幡平大沼を訪れ、周辺の見学や鹿角の名所を紹介するビデオの撮影をしました。八幡平ビジターセンターのガイドの方から説明を受けながら、大沼の自然環境について学びを深めました。

当日は降雪も見られ、子ども達は平地よりも早い冬の訪れに大興奮でした。

青少年育成鹿角市民会議 令和4年度のあゆみ

声かけ運動一斉キャンペーン

(以降、声かけ運動は8月と1月を除き毎月5日に実施)

第1回三役会議

第2回三役会議

第3回三役会議

青少年育成鹿角市民会議総会・30周年記念式典

白ボスト回収(鹿角花輪駅・十和田南駅)

第34回鹿角地区少年の主張大会(文化の社交流館)

声かけ運動一斉キャンペーン

わたしの主張2022県北地区予選大会(文化の社交流館)

わたしの主張2022秋田県大会(秋田市立土崎中学校)

第4回三役会議

ふるさと少年探検団(尾去沢小学校5・6学年児童)

青少年を育てる市民のつどい・PTA活動を考える会

青少年育成鹿角市民会議常任委員会

白ボスト回収(鹿角花輪駅・十和田南駅)

会報「青少年かつの」第31号」発行

令和4年度 会費納入お礼

ご協力ありがとうございました
令和5年3月9日現在

◆個人

【十和田地区】

青山 節子
阿部 安男
安部 一雄
池田 ホノ子
石川 孝
石川 倉男
石川 利男
大里 弘子
小笠原 節男
長内 昭継

川上 和子
木村 智子
木村 久子
熊谷 純二
小館 一仁
齋藤 裕子
田村 富男
田村 妙子
成田 正喜
成田 哲男
成田 ユキ
平塚 幸見
廣林 剛

榎木 良和
増村 智子
馬淵 大三
三上 豊
守田 由紀子
柳沢 悦郎
山口 京子
上関 光世
上関 幸子
和田 寛美
青山 武夫
浅水 哲
安保 勝彦

安保 喜一郎
安保 悦子
安保 百合
石木田 智佳子
石坂 則子
井上 郁子
大澤 太
大澤 宏子
大畑 雅彦
小嶋 健一
小田島 裕悦
海沼 佳幸
海沼 哲史
木村 忠好
木村 礼子
工藤 富雄
工藤 麗子
工藤 広治
黒澤 悦朗

児玉 晃
小玉 正博
児玉 政明
児玉 千春
児玉 弘志
駒ヶ峯 岩太郎
齋藤 繁男
齋藤 茂
佐藤 大介
佐藤 忠雄
佐藤 史明
菅原 厚
関 正天
関 宗光
相馬 ミサ
高谷 善子
武田 実
田中 敬
千田 一
兎澤 祐一
豊田 憲雄
中山 一男
島山 義孝
花ノ木 和儀
原田 宗悦
日高 玲子
福島 洋子
藤田 正和
米田 優子
前田 アヤ子
舩屋 修美
安田 孝司
柳田 亮子
山田 朝子
吉田 俊子
吉成 博雄
吉成 敏子
石井 睦子
石井 夕ヨ

◆団体

【PTA】

花輪高等学校PTA
十和田高等学校PTA

内田 清隆
大信田 弥生
岡本 英毅
神成 満子
工藤 トモ子
佐藤 ミサ
嶋守 ミチ
関 堯
高杉 政人
高杉 奈穂子
高橋 好晴
免澤 秀隆
奈良 隆
福島 久美子
前田 和子
村木 哲文
阿部 聖
阿部 義弘
阿部 照芳
阿部 一弘
石坂 一弘
金澤 一弘
神田 昭悦
神田 裕悦
齊藤 末治
齊藤 策徳
佐々木 忠臣
佐藤 操
鈴木 靖男
田中 一良
古家 典子
松岡 昇
他、鹿角市役所職
員・鹿角市管理職親
交会会員 112名
花輪中学校PTA
十和田中学校PTA
尾去沢中学校PTA
八幡平中学校PTA
花輪小学校PTA
柴平小学校PTA
十和田小学校PTA
大湯小学校PTA
尾去沢小学校PTA
八幡平小学校PTA
【自治会】
上自治会
長内自治会
川原自治会
久保田自治会
小枝指自治会
小坂三区自治会
沢口一區自治会
陣場自治会
瀨田石自治会
館自治会
谷内自治会
西町自治会
東町自治会
福土自治会
古川自治会
松山自治会
三ヶ田自治会
山方自治会
湯瀬自治会
熊沢自治会
【その他の団体】
鹿角市防犯協会
十和田地区民生児童委員会
尾去沢地区民生児童委員会
花輪地区民生児童委員会
八幡平地区民生児童委員会
花輪地区子ども会世話人会
市子ども会育成連合会
十和田地区子ども会世話人会
八幡平子ども会育成連合協議会
尾去沢地区子ども会世話人
連絡協議会
鹿角市校長会

◆企業

鹿角地区保護司会
八幡平地区保護司会
大日靈貴神社
八幡平地区老人クラブ連合会
花輪地区老人クラブ連合会
十和田地区老人クラブ連合会
鹿角市社会福祉協議会
かづの商工会
鹿角地区少年保護育成委員会
毛馬内女性工コ会の会
八幡平婦人会
鹿角退職公務員連盟
産業活力課親睦会
(順不同・敬称略)
(有)海沼工務所
(有)安心サービス
(株)ユゼ
(株)柳澤鉄工所
(株)小坂橋建設
(株)大里恒三商店
(株)コネクタ(株)
(株)八重樫建設
(株)柳沢建設
(株)カンザイ
T&A
佐藤珠算教室
(有)上津野ティーム
恩徳寺

会 員 募 集

青少年育成鹿角市民会議は、市民会員の会費によって運営されており、市民会員の活動に賛同される方、団体、企業は、会員として是非活動に参加してください。

●問い合わせ先

鹿角市教育委員会生涯学習課内
電話3010292

個人(年会費)	5,000円
団体(年会費)	10,000円
企業(年会費)	20,000円